

科目名	防衛政策	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修	■ 選択
英文表記	Defense Policy	開講年次	□ 1年 ■ 2年 3年 □ 4年		
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	まるや あきひこ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	丸谷 明彦	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本の防衛政策の成り立ちや現状について学ぶ。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 日本の防衛を取り巻く現状と課題について、理解を深めることができる 2 世界の地域情勢を理解する上で重要なポイントを把握することができる 3 日本の防衛政策を担当する政府の組織・機構について、学ぶことができる				
授業概要	日本の防衛政策の現状と課題について、具体例を交え、多様な側面からご説明します。国際情勢に加え、政府の果たす役割と組織など、政治や行政に関心を持つ方々の聴講も歓迎です。				
授業計画					
第1回	防衛政策とは (全体のガイダンス)				
第2回	国家の安全ということ				
第3回	日米同盟				
第4回	自由貿易体制				
第5回	中国とどう向き合うか				
第6回	朝鮮半島とどう向き合うか				
第7回	ロシアとどう向き合うか				
第8回	前半のまとめ・中間試験				
第9回	日本の安全保障政策はどのように決まるのか				
第10回	政治主導ということ				
第11回	国家安全保障会議 (NSC) とは何か				
第12回	国家安全保障局 (NSS) とは何か				
第13回	シビリアンコントロール (文民統制) について				
第14回	インテリジェンスの果たす役割				
第15回	全体のまとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業の前にテーマについて、ネットなどで調べ、大まかなイメージをつかんでください。その際、疑問や質問も考えておいてください。(2時間程度) 2. 毎回、前回の講義内容の確認を行いますので復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)				
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原則として配布しませんので、友人同士でコピーしてください。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。				
テキスト					
参考文献・資料	兼原信克『安全保障戦略』(日本経済新聞出版本部)				
成績評価の方法	【試験(中間40%、期末40%)、受講態度20%】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> </ul>
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30・火曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は公務員として公共の安全に関する業務に携わってきました。この授業をとおして、日本の防衛政策を考える上で、どのような論点が必要になるかなど、みずからの経験も踏まえ、お話ししたいと思います。
学生へのメッセージ	昨年のロシアによるウクライナ侵攻以来、防衛政策を身近に感ずる機会が増えていると思います。国の安全を守っていく上で、日本として何が必要で、どのように具体化すれば良いのか、防衛政策の現状と今後を一緒に考えていきましょう。